

見本

浪江町緊急通報システム使用貸借契約書

浪江町長 吉田 栄光（以下「甲」という。）と **申請者名**

（以下「乙」という。）との間に緊急通報システム（以下「システム」という。）の使用貸借について、次のとおり契約を締結する。

（貸借物件）

第1条 甲は乙に対し緊急通報システム機器を貸付け、乙はこれを借り受ける。

（貸与期間）

第2条 システムの貸与期間は、本契約締結の日から乙が浪江町緊急通報システム貸与規定の対象者に該当しなくなるまでの期間とする。

（引渡し）

第3条 甲は、システムの貸与にあたっては乙の居宅において引き渡すものとする。

2 甲は、貸与に際しては、乙に対し貸与の目的、貸与条件、システムの取り扱い方法等について説明指導するとともに、貸与期間中においてもその適正な利用及び管理が図られるよう指導するものとする。

（費用の負担）

第4条 乙は、浪江町高齢者等生活支援・介護予防・生きがい活動支援事業実施要綱第8条に基づいて費用を負担する。また、費用負担の算出に要する審査等については、甲に一任する。

（転貸等の禁止）

第5条 乙は、システムを他の目的に使用し、又は他人に譲渡し、転貸し、交換、若しくは担保に供してはならない。

（使用上の損傷等）

第6条 乙は、システムを棄損又は滅失した場合は、直ちに甲にその状況を報告し、乙の負担において現状に回復しなければならない。

（システムの返還等）

第7条 乙は、システムの貸与を必要としなくなったときは、速やかに甲にその返還を申し出なければならない。

2 甲は、乙がシステムを必要としなくなったとき又は本契約に違反したと認めるときは、その返還を命ずることができる。

(緊急時の立ち入り等)

第8条 乙は、緊急時にシステムを使用したときは、緊急通報協力員、消防署員の関係機関等（以下「関係機関等」という。）が住宅に立ち入りすることを認めるものとする。

2 乙は、関係機関等が立ち入ったとき、住宅の一部に破損が生じても、修復責任を問わないものとする。

(協議事項)

第9条 この契約に定めのない事項又はこの契約に疑義を生じた事項は、甲乙協議して定めるものとする。

上記契約の証として本書 **2通** を作成し、当事者記名押印のうえ、各自1通を保有する。

令和	年	月	日
----	---	---	---

*日付は機器をお渡しする日です。
町で記入いたします。

甲 浪江町大字幾世橋字六反田7番地2

浪江町長 吉田 栄光

乙 浪江町大字○○字□□□×番地

申請者名

Ⓜ

申請者の住所（浪江町）、氏名を記入し、
押印してください。

契約書ですので甲乙分の2部作成してください。